

## 放射線業務従事者の線量等に関する報告の訂正について

平成 18 年 12 月 26 日

放射線管理状況等の報告に関する原子力安全・保安院の指示(※1)に基づき報告している「放射線業務従事者線量等報告書」について、以下の記載に誤記を確認しました。

このため、本日(12月26日)、同院に対して訂正した報告書を提出するとともに、原因と再発防止対策を報告しましたのでお知らせします。

### 【記載に誤記のあった箇所】

1. 女子放射線業務従事者の平成15年度における年度総線量
2. 使用済燃料プール(※2)またはサイトバンカ(※3)に保管した使用済みの中性子検出器(※4)等の、平成10年度～17年度における年度数量

### 【原因】

1. 女子放射線業務従事者の総線量  
算出時に使用していた単位(人・mSv)を報告単位(人・Sv)に換算する際に桁数を間違えた。
2. 使用済燃料プール、サイトバンカに保管した使用済みの中性子検出器等の数量  
中性子検出器を扱う担当課、使用済燃料プールを管理する担当課、サイトバンカを管理する担当課の3課において、使用済みの中性子検出器を移管する際に、移管先に提供する数量の情報が不明確であったため、中性子検出器等の集計に誤りが発生した。  
なお、訂正に係わる使用済みの中性子検出器で、所在不明となっているものはありません。

### 【再発防止対策】

1. 女子放射線業務従事者の総線量
  - ・手計算で行っていた単位(人・mSv)から単位(人・Sv)への換算について、(人・Sv)単位でも出力されるように線量データを管理しているコンピュータ・システムを変更する。
  - ・社内手引に、データの再チェックを実施するよう記載する。
2. 使用済燃料プール、サイトバンカに保管する使用済みの中性子検出器等の数量
  - ・使用済みの中性子検出器等については、使用済燃料プールの管理担当課で一元管理する。
  - ・管理担当課で一元管理する情報を明確にし、その情報の伝達ルートを社内手引に記載する。

※1 放射線管理状況等の報告に関する原子力安全・保安院の指示とは、放射線業務従事者の線量や放射性固体廃棄物の発生・保管量等について同院への報告を示した、「放射線業務従事者の線量等に関する報告について(平成14年4月1日付け)」です。

平成12年第3四半期まで四半期毎、平成13年度からは年度毎に報告しています。

※2 使用済み燃料プールとは、使用済みの燃料や炉内で使用済みとなった制御棒や中性子検出器等の機器を保管するための設備です。

※3 サイトバンカとは、使用済制御棒等の線量の高い放射性固体廃棄物を保管する設備です。

※4 中性子検出器は、運転中の原子炉内の中性子分布を測定します。使用済みの中性子検出器は、使用済燃料プールで一時保管され、その後、サイトバンカで保管されます。

以上

## 誤記の詳細について

項目	報告時期	記載誤りの内容
女子放射線業務従事者の総線量	平成15年度	<p>・平成15年度第1四半期分 3. 31人・mSvを報告単位に換算した際に、0. 00人・Svと書くところを0. 03人・Svと記載した。</p> <p>・平成15年度第2四半期分 2. 16人・mSvを報告単位に換算した際に、0. 00人・Svと書くところを0. 02人・Svと記載した。</p>
使用済燃料プールに保管する 使用済み中性子検出器の数量	平成10年度	<p>平成10年度に、3号機の使用済燃料プールからサイトバンクに使用済み中性子検出器やドライチューブ(※1)を移動した際に、誤ってドライチューブ29本を使用済み中性子検出器として集計した。</p> <p>その結果、サイトバンクの使用済み中性子検出器の保管数量が実際よりも29本多く記載された。</p> <p>その他(※2)の保管数量(体積量にて表示)については、ドライチューブ29本分少なく集計されたため、実際より1m<sup>3</sup>少なく記載(※3)していた。</p>
サイトバンクに保管する 使用済み中性子検出器の数量	平成10年度～17年度	
サイトバンクに保管する その他の数量	平成14年度	
使用済燃料プールに保管する 使用済み中性子検出器の数量	平成11年度～17年度	<p>平成11年度に、2号機でドライチューブ取り替えに合わせて、使用済み中性子検出器を撤去した際、使用済み中性子検出器4本分が集計漏れとなり、実際よりも4本少ない本数で記載していた。</p>

※1 ドライチューブは中性子検出器を入れるためのステンレス製の筒です。

※2 サイトバンクに保管するその他とは、ドライチューブや使用済制御棒等を切断して保管箱に詰めたもので、放射線業務従事者線量等報告書では体積換算して報告します。

※3 その他の数量については、平成10年度から17年度の間でドライチューブ29本分少なく集計されていましたが、報告書様式に合わせるため実施している端数処理(四捨五入)で、繰り上がり処理となる14年度のみ記載の訂正が必要となりました。